

www.scout.or.jp



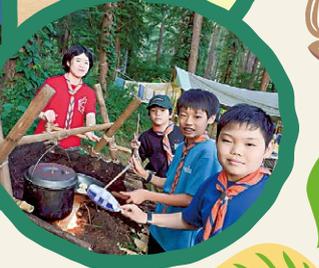
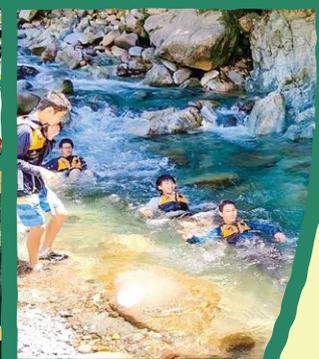
Compass

コンパス オブ スカウト

of Scouts



2026年1月号
季節をめぐる、
彩りの冒険記



そなえよつねに
ボーイスカウト

CONTENTS

- 02 ようこそ、ボーイスカウトの世界へ！
- 03 全国で開催されている
ボーイスカウトの活動体験記
- 17 第16回 世界スカウトムート派遣
概要報告
- 18 第28回アジア太平洋地域（APR）
スカウト会議
- 18 カンダージュテーク
夏季野営スタッフ派遣
- 19 JOTA-JOTI 2025
- 19 スカウトの日2025
出動！キラまち隊！
～人と地球によりよい未来を～
- 20 第25回 全国スカウトフォーラム
アフターフォーラムアフター
- 21 Rover Scout Workshop 2025
開催報告
- 22 ボーイスカウト 日本連盟
医療チーム
- 23 第19回 日本スカウトジャンボリー
開催へ
— 仲間と楽しみ、未来へつながる7日間 —
- 24 スカウト活動を通して成長した
若手リーダーが社会でどのように
活躍しているかインタビューしました！
- 26 #「やりたい」を、あきらめさせない。
- 28 私たちの運動は
皆さまに支えられています
- 30 未来を照らす冒険に、あなたの力を。
- 31 公益財団法人として信頼される
ガバナンス体制に基づく健全な
財務運営

ようこそ、 ボーイスカウトの世界へ！

Compass of Scouts とは

私たちボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる、世界最大級の青少年教育運動です。

広報誌 Compass of Scouts では、ボーイスカウトのことをご存知でない方々にもわかりやすく、全国各地でのバラエティーに富んだ活動、そして多様な体験活動の機会についてお伝えすることを目指しています。

ボーイスカウトの世界では子どもたちの年齢に応じて、成長段階を考慮した5つの部門で活動を展開しています。男女問わず、全国各地で活動中です。私たちは野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、多くの体験と成長の機会を子どもたちに届けています。ここでしか学べないスキルと体験から、子どもたちの「生きる力」と「活躍の力」を育むことができます。

小学1～2年生
ビーバースカウト



小学3～5年生
カブスカウト



小学6～中学3年生
ボーイスカウト



中学3年生～18歳
ベンチャースカウト



18歳～26歳
ローバースカウト



スカウト活動で
できること

遊びから体験し、学ぼう

冒険し、チャレンジし、学ぼう

社会の役に立つ経験をしよう

自立心を育み、社会の一員へ

広がる国際交流の機会

社会に役立つ人材に

イギリスで始まったボーイスカウト運動は世界に広がり、日本での歴史も100年以上となりました。

そんなボーイスカウトの活動は全国各地のボランティアの方々によって支えられ、今では世界176の国と地域で6,000万人以上が活動しています。※2025年12月現在

私たちの活動は子どもたちの好奇心と成長、それを支えるボランティアの方々の熱意によって100年以上のバトンを繋いできました。私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。



そんな私たちボーイスカウトの、未来を照らす活動の世界を、ぜひのぞいてみてください。

人と地球によりよい未来を

全国で展開されている ボーイスカウトの活動体験記

2025年春～秋までの海外・オンラインを含めた全国での活動記事をご紹介します。



P.4
2025北海道カブラリー
in 秩父別



P.4
秋の牧山は
トレジャー（宝）がいっぱい！！



P.5
江島48時間耐久キャンプ
～ぼくらのひと夏の冒険～



P.5
日本ボーイスカウト秋田県連盟
連盟長に鈴木健太秋田県知事が
推薦されました



P.6
第21回茨城県キャンポリー
「Let's Go Scouting! 輝く未来をつかむために」



P.6
宝台樹で班旗を掲げ
ボーイスカウトらしさを高めよう



P.7
理想のスカウト野営を追求する！
第44回夏期野営



P.7
アメリカスカウトと冒険！
国際交流ハイキング



P.8
あこがれの社会科見学！！



P.8
横浜地区・みなと地区のスカウトたちによる
『YOKOHAMA PERSPEX』が、
第73回ザ・よこはまパレードへ



P.9
個と個の融合で
#ジャンポリーの地に恩返しを



P.9
福井連盟創立75周年
記念キャンポリーを開催



P.10
シンガポール・マレーシアの
スカウト仲間ができた！



P.10
スカウトの魅力を集結！
あいちスカウト★フェスタ2025



P.11
京都連盟創立110周年記念
第72回京都キャンポリーを開催しました



P.11
京の都を魑魅魍魎から守れ！



P.12
科学 & 芸術の結晶で
白熱の一日を！



P.12
創立110周年記念・社会連携事業
「KYOTO アドベンチャーチャレンジ2025」



P.13
兵庫連盟創立75周年記念大会



P.13
大阪・関西万博への参加



P.14
世界とつながれ！
JOTA-JOTI パーク



P.14
第19回日本スカウトジャンポリー
プレ大会を終えて



P.15
台湾嘉義市スカウト連盟と
愛媛県連盟の国際交流スタート



P.15
第13回福岡県キャンポリー
2025開催



P.16
出動！地球まもり隊！



P.16
75年ありがとう
そして つなげよう未来へ

※執筆者の所属は応募当時の所属・役務で掲載しています。



お住まいの地域の活動拠点はどこ？

日本連盟の Web サイトでは全国の活動拠点を検索することができます。あなたのお住まいの地域の活動拠点を探してみましょう！活動体験の申し込みも可能です。

<https://www.scout.or.jp/team>



2025北海道カブラリー in 秩父別

県副コミッショナー 木下 亮

9月13日(土)～15日(月)まで北海道秩父別で「とれじゃーふあーむフェスティバル」が開催されました。

2025北海道カブラリーでは、数年に一度しか現れない「幻のファーム」にスカウト、指導者、保護者あわせて246人が集まり、「力を合わせて収穫体験」をテーマに3日間の活動を行いました。

地元農作物の収穫体験を通じて生産者への感謝を伝え、すべての命を大切にする学びにつながるプログラムを展開しました。初日は事前課題の発表や野菜クイズ、2日目はミニトマトやブロッコリー、稲、サツマイモの収穫体験やファームトラクターを使うなどのゲーム、夜には収穫や土地への感謝祭を行いました。3日目には生産者へ感謝のメッセージカードを作成し、持ち帰った収穫物は後日それぞれの活動拠点にて、稲の脱穀から精米、試食までを体験できる喜びを得ました。期間中はスカウト同士で名前シール交換や手紙のやり取りが行われ、友情の輪が広がる充実した3日間となりました。



宮城



秋の牧山はトレジャー（宝）がいっぱい！！

石巻第6団 ビーバースカウト隊隊長 佐藤 早苗

9月28日(日)石巻牧山市民の森で集会を行いました。

「トレジャーハンター 集合！」で集まったビーバースカウト3人、スカウトの兄弟2人、指導者1人、補助者2人、保護者4人。出発時に松ぼっくりやどんぐりの入った宝箱を見せると、自分たちも宝物を拾おうと意気揚々、張り切って出発!! すぐに大きなアシナガグモを見つけた!! 触ってごらんと促すと、おそるおそる……「触れた～」「触れな～い」と大騒ぎ。どんどん登っていくと今度はトンボが緑色の羽虫を補食している場面に遭遇。捕まえてもむしゃむしゃむしゃ……。頂上の休屋で、一人ひとり拾った宝物の発表を行い、椿の実、クルミ、松ぼっくり……たくさん拾えました。

下山の際には「猛獣狩りゲーム」～自然の中に隠れている猛獣を探そう～を実施しました。自然の中に隠れている猛獣(今回の猛獣は、キリンのぬいぐるみ、赤べこ、リスのお弁当箱)がどこに隠れているかとじっくり観察しました。

最後に「トレジャーハンター認定証」を授与され、今日の任務は終了です!



宮城

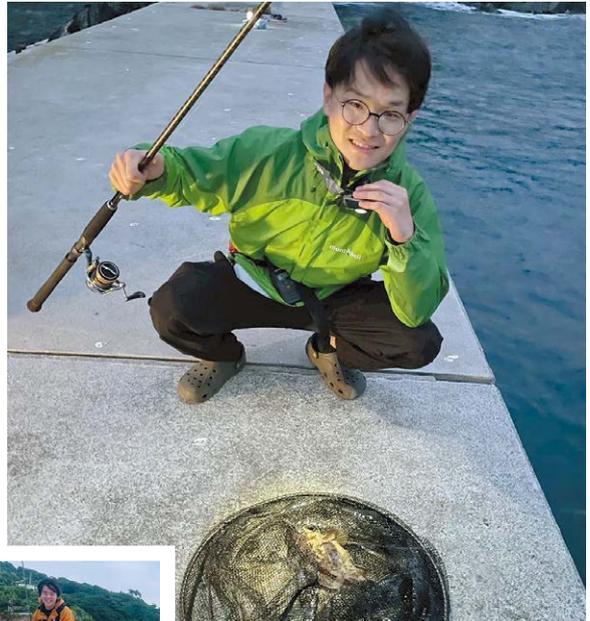
江島48時間耐久キャンプ ～ぼくらのひと夏の冒険～

仙台第1団 ローバースカウト 佐藤 一紀
湯川 万尋
菅原 樹

7月11日(金)～13日(日)、宮城県女川町の離島・江島にて、ローバースカウト3人で48時間の耐久キャンプを行いました。特別な許可をいただき、旧女川第五小学校跡地を拠点とし、潮の満ち引きに合わせて昼夜の釣行を実施。水とお米と調味料以外の食材を持ち込まず、釣れた魚のみを食事とする完全自活型のプログラムに挑みました。

天候に恵まれ、海風が心地よく、生活環境は想像していたよりも快適でした。釣果も良好で、メバルを中心に複数の魚を確保し、塩焼き・汁物など多彩な料理をつくることができました。最も心に残ったのは島民の皆様の温かさでした。到着時には区長さんが声をかけてくださり、島の設備やルールなどを丁寧に案内していただいたことで、安心して活動を進めることができました。何気ない会話から島の歴史や暮らし、海を守る思いを知り、自然と人が共に生きてきたことを肌で感じました。

自分たちの判断で行動計画を修正し、役割を分担しながら生活をつくり上げた48時間。自然の豊かさと、仲間と挑戦することの大きな学びを得た遠征となりました。



秋田

日本ボーイスカウト秋田県連盟 連盟長に鈴木健太秋田県知事が 推戴されました

事務局長 吉田 司



7月13日(日) ANA クラウンプラザホテル秋田において、日本ボーイスカウト秋田県連盟連盟長に鈴木健太秋田県知事が推戴されました。

推戴式には、安田秋田県教育長、進藤秋田テレビ(株)社長、内田秋田県生涯学習課課長、三浦秋田県生涯学習課社会教育主事、村田日本連盟総コミッショナー、他多数のご来賓が出席され厳粛な雰囲気で行われました。

推戴式は、100人を超える県内スカウトや保護者が着席した会場に、鈴木健太知事がボーイスカウトのユニフォーム姿で入場しました。ボーイスカウトの基本となる「ちかい」の式をステージ上で執り行い、スカウト仲間として歓迎しました。また、田村秋田県連盟理事長から鈴木健太知事に推戴状が奉呈され、日本ボーイスカウト秋田県連盟の連盟長に推戴されました。ご来賓の皆様よりご祝辞を賜り、ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャーの各代表スカウトからもお祝いの言葉が贈られました。

緊張する式でしたが、終了後には連盟長と一緒に写真を撮ったりお話をしたりして、終始和やかな雰囲気の中で連盟長を皆でお見送りました。

これから、鈴木健太連盟長のもと、楽しいスカウト活動を活発に展開しながら秋田県内にこの活動を広めていきたいと思っております。



茨城

第21回茨城県キャンポリー 「Let's Go Scouting! 輝く未来をつかむために」

茨城県連盟

8月8日(金)～11日(月)の4日間、大和の森・高萩スカウトフィールドのキャンプサイトに茨城県内のスカウトたちが集結しました。前回はコロナ禍での中止もあり、実に9年ぶりの開催です。

参加者総数は490人、その内訳は以下の通りです。

- 参加隊(33こ団)のスカウト145人、指導者61人
- 大会スタッフ(奉仕者)は98人
- 見学隊(11こ団)は、スカウト・指導者142人、保護者・兄弟姉妹など44人

スカウトたちは、キャンプサイトでのテント設営から始まり、スカウトのつどい、常設プログラム・隊プログラム、キャンポリーナイト、カブビーバーディ(カブスカウトたちの体験・見学会)、屋台村を開設しての相互交流を行いました。キャンポリー大集会(スカウトのステージパフォーマンス)で大会は最高潮に! 最終日はテントの撤営を終え、大会の幕を閉じました。

常設プログラムではアーチェリー体験が盛況で、他には火おこし競争や手旗信号リレー、ロープワークによる班旗立てなどで日ごろの活動の成果を披露しました。



※キャンポリー：地区あるいは県連盟・地方の規模で開催されるスカウトのキャンプ大会

群馬

宝台樹で班旗を掲げ ボーイスカウトらしさを高めよう

群馬県連盟県野営大会 大会長 大川由明



開会式



場内プログラム「ローマ戦車」



場外プログラム「尾瀬ネイチャーラインング」

第32回県野営大会を8月8日(金)～12日(火)の4泊5日の日程で、群馬みなかみほうだいぎキャンプ場で開催しました。群馬県連盟が独自開催する野営大会としては、13年ぶりの開催です。ボーイスカウト101人、ベンチャースカウト26人、ローバースカウト12人、指導者85人が参加しました。

今大会では、場内プログラムとして「レイジングフラッグ(班旗を自立させるまでの時間を競うゲーム)」など5種類の種目で日本一を目指してチャレンジしました。また、県内企業の協力を得て「焼きそばレシピコンテスト」など5種目の選択プログラムも準備。多数のプログラムを班対抗で挑戦し、スキルの向上を目指すとともに班の名誉をかけて競いました。場外プログラムでは、地域のガイドによるラ

フティングなどのアクティビティや尾瀬ハイクなどの冒険や体験も楽しみました。また、カブスカウト隊や一般の方向けのプログラムも充実。多くの方の楽しむ姿が見られました。テントサイトでは、各地区ごとに分かれたエリアで、それぞれの班の工夫が随所に見られ、お互いによい刺激を受けていました。

理想のスカウト野営を追求する！ 第44回夏期野営

川口第19団 ボーイスカウト隊副長 廻路子

8月8日(金)～13日(水)、タイガー班、イーグル班、ウルフ班、コブラ班のボーイスカウト26人、ベンチャースカウト3人、指導者3人の総勢32人が参加し、群馬みなかみほうだいぎキャンプ場で夏期野営を開催しました。

毎朝の点検、1日3回の配給と班炊事の忙しい合間を縫って、「創意工夫」と「日日の改善」「撤営までが設営」を合言葉に、班サイトでは野営を快適に過ごすため、持ち込んだ竹や拾った木の枝で立ちかまどやシステムキッチン、ゴミ箱、工具棚などの「野営工作」を創ります。

ラフティングや満天の星空での星探し、飯盒プリン、バーベキューや大営火など夏期野営ならではのアクティビティも楽しみました。

最終日の「班サイトコンテスト」では全員で各班サイトを見学。各班の伝統と工夫と発想に富んだ、指導者も驚くこだわりの工作物がいくつも作られ、班サイト自慢で盛り上がりました。

班長がリーダーシップをとり、班員はフォロワーシップで「最優秀班」獲得を目指す熱い戦いの6日間。

スカウトたちの個性が光る夏期野営となりました。



各班サイトの野営工作は
当団 facebook にて



アメリカスカウトと冒険！ 国際交流ハイキング

志木第1団 ベンチャースカウト 高橋 凜華

私たち志木第1団は川越第10団と共に、アメリカのボーイスカウト(BSA)のオレゴン団のスカウト仲間と交流するプロジェクトを実施しました。水子貝塚公園や難波田城公園など普段活動している近隣の施設を巡り、日本の自然や歴史を感じながら約10kmのハイキングを実施しました。ハイキング、野外炊事、レクリエーションの役割を分担し、オンライン会議やコース下見、買い出しなど、ベンチャースカウト隊の最初のプロジェクトとして高校1年生3人で企画から報告まで実施しました。当日は手作りのウェルカムボードで一団を迎えました。30度を超える暑さの中でのハイキングでしたが、全員が無事に歩ききることができました。昼食は竹を使ってご飯を炊き、みんなでおにぎりを握って食べました。日本の食材も楽しんでもらえるように、漬物や梅干し、スパムなどのさまざまな具材を用意しました。レクリエーションではBSAが実施したゲームが盛り上がり、言語の壁を越えて笑顔で交流することができました。



千葉

あこがれの社会科見学!!

浦安第2団 カブスカウト隊隊長 田代 裕貴

私たちの隊では年に2回ほど保護者の協力を得て社会科見学を実施しています。

① 国会議事堂、議員会館見学

8月22日(金)岡野 純子衆議院議員および秘書の皆さんのご協力をいただき、国会議事堂内の見学と、普段入ることの出来ない議員会館で岡野議員の事務所を案内いただきました。クイズをしながら勉強したほか、議員会館内でおいしいランチもいただきました。今回の国会見学を通して、子どもの中には将来総理大臣になりたいというスカウトもいました!! 浦安から総理大臣が出たら嬉しいですね。参加人数:スカウト14人、指導者8人

② 飛行機整備見学

9月21日(日)羽田空港に整備工場見学に行きました。飛行機について、そしてパイロットや客室乗務員についてなど博物館で学びました。さらには実際の飛行機の近くまで行き機体について学ぶこともできました。熱心にメモを取ってるスカウトも多かったです。

参加人数:スカウト18人、指導者15人



国会議事堂前



国会見学をさせてくれた岡野純子衆議院議員へ御礼の色紙をお渡し



飛行機の機体をバックに撮影

横浜地区・みなと地区のスカウトたちによる『YOKOHAMA PERSPEX』が、第73回ザ・よこはまパレードへ

横浜地区 カラーチーム隊長 中井 佑亮(横浜第20団)



神奈川

私たち「YOKOHAMA PERSPEX」(スカウト20人、指導者4人)は、5月3日(土)に開催された「第73回ザ・よこはまパレード(横浜開港記念みなと祭 国際仮装行列)」に参加しました。チームは高校生から25歳までのスカウトを中心にフラッグチームとドラムチームで構成されており、自ら企画運営を行なっています。今年までで43年間の伝統を積み重ねてきました。

3月から本番までの2か月間、土日の合宿を通して演技の完成度を高めていきます。活動中は、時にはお互いがぶつかることもありますが、一つ一つ丁寧に意見を出しあいながら解決していきます。そういった組織運営を学べることもこのチームの特徴の一つです。

当日は山下公園から大通公園まで約3.4kmを行進し、沿道に集まった約38万人の観客の皆さんから「ボーイスカウトってかっこいいね!」と温かい声援をたくさんいただくことができました。

多くの先輩たちが培ってきた長い伝統を持つこのチームを、これからもスカウトたちの成長の場として大切にしていきたいと思います。



東京

個と個の融合で # ジャンボリーの地に恩返しを

プロジェクトチーム「ボーイスカウトふるさとはけん隊」

2018年に石川県珠洲市で開催された第17回日本スカウトジャンボリー^{※1}に、参加者として石川県珠洲市にいた、東京ほか5県連盟のローバースカウトと指導者計12人が、ジャンボリーの地への恩返しのため集いました。10月13日(月)、市内三崎公民館にて、珠洲の自然を舞台にした物語仕立ての謎解きポイントラリーを企画、実施しました。「珠洲防衛隊～キミは自然のマモリビトになれるか」と題した今回は、参加者が能登・珠洲をもっと好きになる機会となるようプログラムを考え、市内の小学生23人にご参加いただきました。前回のプログラムの際に仲良くなったローバースカウトへの手紙を持参してくれる参加者もあり、参加者運営双方の心温まる時間となりました。

ジャンボリーの地への恩返し、また次の世代にもつむぐ「恩送り」として、発災以降安心できる遊び場が地域にない子どもたちに、学校でも家庭でもない体験の場を提供できるよう、地域の方々と協同しながら引き続き続けます。私たちのプロジェクトチーム「ボーイスカウトふるさとはけん隊」は今後も地域課題の解決に青年とスカウティング^{※2}のチカラで挑み続ける予定ですので、皆様の応援をお願いします。



※1 ジャンボリー：国または地域的・国際的・世界的規模で開催されるキャンプ大会。 ※2 スカウティング：スカウト活動のこと。

福井

福井連盟創立75周年 記念キャンポリーを開催

県コミッショナー 水中 静以智



日本ボーイスカウト福井連盟は創立75周年を記念し、キャンポリーを7月19日(土)～21日(月)の3日間、福井県立奥越高原青少年自然の家で開催しました。ビーバースカウトからローバースカウト140人と指導者・関係者135人が参加。「つなぐ未来へのスカウトスピリット」をテーマに伝統を振り返り、未来へ続く一歩を踏み出しました(ビーバースカウトは日帰り)。

豊かな自然の中での野営を基盤に、自然、歴史、文化に触れる多彩なプログラムを展開。技能や協力を競う「日本一チャレンジ!」や、地元の伝統芸能体験も実施しました。地域連携を深めるため地元大野市でのプログラムも実施し、ベンチャースカウトは高度な活動に挑戦、ローバースカウトは運営奉仕で大会を支えました。

スカウトは仲間と協力し、自主性、創造力、問題解決能力を伸ばさせました。75周年という節目の年にふさわしい、スカウトたちの成長と友情の輪が広がる最高のキャンポリーとなりました。



静岡

シンガポール・マレーシアの スカウト仲間ができた！

静岡地区

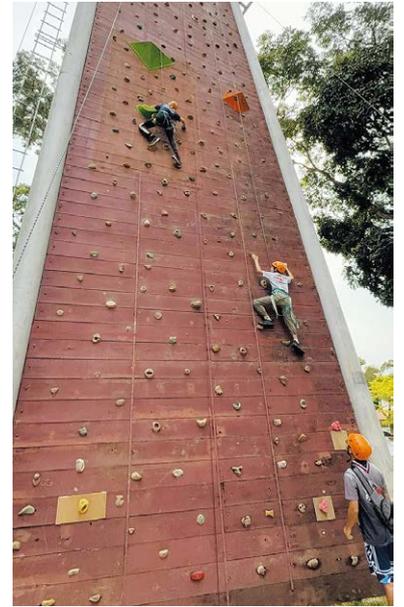


静岡地区は11年前からシンガポールのスカウトと相互に訪問する国際交流を始め、これまでにシンガポールスカウトが静岡を4回訪問、静岡のスカウトは今回で3回目のシンガポール訪問となります。

今回は、2025年3月26日(水)～4月2日(水)の8日間、小学5・6年生のスカウト8人・中学生スカウト9人・ベンチャースカウトとローバースカウト2人・指導者5人総勢24人が参加しました。

シンガポールはスカウト活動が学校のクラブ活動として行われており、3つの学校を訪問し活動に参加して交流しました。週末は、シンガポール連盟のキャンプ場で学校訪問したスカウトたちと活動し、夜はにぎやかなキャンプファイアを楽しみました。キャンプ場には昨年静岡に来たマレーシアのリーダーが、スカウトたちと一緒に250kmも離れたマレーシアのマラッカから駆けつけ交流の輪がさらに広がりました。

初の海外旅行で、初対面のスカウトとの交流。初めはみんな緊張していましたが、やはりスカウト活動は世界共通。すぐに打ち解けて8日間でたくさんのスカウト仲間ができて、楽しい思い出も作ることができました。



愛知

スカウトの魅力を集結！ あいちスカウト★フェスタ2025

愛知連盟

10月3日(金)～5日(日)に開催した本事業。2年目となる今回は、金曜・土曜の2日間、愛知県国際展示場で開催された「SDGs AICHI EXPO」への出展を通じて社会へのボーイスカウト活動のPRに取り組みました。ブース出展、ステージへの登壇、ワークショップ開催を通じて約500人の来場者と交流し、ボーイスカウト運動の魅力を伝えることができました。そして日曜は愛知県清須市に構えた会場に県内各地から約850人が集結。さまざまな功績をあげたスカウトの表彰が行われたほか、各種企業・団体やローバースカウトが出展したブースをめぐって楽しむビーバースカウトやカブスカウトの姿が見られました。

両会場にはそれぞれ、愛知県知事(名誉連盟長)や地元・清須市の教育長、また、県内の青少年育成団体の方々やお隣の岐阜県連盟からもお越しいただき、ボーイスカウト運動の価値や魅力について語り合うこともできました。

来年はどんなお祭り(フェスタ)になるか、すでにワクワクが始まっています！



ローバースカウトから教えるカブスカウトたち(清須会場)



来場した小学生にローバースカウトが説明を(常滑会場)



第46回図画・写真コンテストの受賞者の皆さん(清須会場)

京都

京都連盟創立110周年記念 第72回京都キャンポリーを開催しました

宇治第5団 団委員長 西田 章夫

京都連盟は、大正4年に平安神宮にて創立され2025年に110周年を迎えました。これを記念した行事として「第72回京都キャンポリー」を5月3日(土)～6日(火)まで「ハピロー!の森京都(府民の森ひよし)」にて、「B.P (Best Patrol) Spirit」をテーマに開催しました。

大会は、スカウト約210人、指導者・スタッフ約160人、総数約370人の京都のボーイスカウトが一堂に集い、日ごろの活動で培った「スカウト精神」と「スカウト技能」を存分に発揮する場となりました。

開会式は、西脇連盟長(京都府知事)出席のもと、多くのご来賓に出席いただき、コロナ過を経て8年ぶりの大会が始まりました。最終日前夜は雨でしたが期間中は好天に恵まれ、ポイントラリーやワイドゲーム※、京都一プログラムなど、夜はキャンプファイアとスカウトたちは積極的にプログラムに取り組み、多くの仲間との活動や交流を楽しみ、絆を深める大会となりました。



※ワイドゲーム：野外で行う大規模なゲームのこと。

京都



京の都を魑魅魍魎から守れ!

京都第42団 ボーイスカウト隊長 駒村 紘之

今回の活動は2025年6月22日(日)に、「京の都を魑魅魍魎から守れ!」をテーマとしてボーイスカウト13人、ベンチャースカウト1人、指導者5人が、京都の歴史や風土を楽しく学ぶポイントラリーを京都市内一円で実施しました。市営バス・地下鉄の一日乗車券を使い、百鬼夜行にまつわる史跡や名所を巡りながら、各地に潜む“魑魅魍魎”を退治していくストーリー仕立てのプログラムです。

出発前には、百鬼夜行絵巻を模した「想定文」を班長に渡し、最初の目的地を決めるために、6桁座標が書かれたメモと1/25,000地形図を使った“座標くじ”を実施しました。くじ引きの瞬間にはスカウトたちから歓声が上がリ、早くも活動への期待が高まっていました。

各ポイントでは、スカウト技能を使って挑む課題が用意され、どの班も協力しながら意欲的に取り組んでいました。歴史や妖怪が好きなスカウトも多く、楽しみながら京都の魅力に触れることができた大満足の日となりました。

京都

科学 & 芸術の結晶で白熱の一日を！

長岡第4団 ベンチャースカウト隊隊長 高田 勇記

パインウッドダービーという楽しい活動をご存知ですか？

松の木を削り出した車体にタイヤを付け、急斜面から3～4台ずつ競走させる遊びです。シンプルですが、流体力学や重量バランスが鍵。さらにデザインコンテストもあり、スピードかい！デザインかい！どっちなんだい！（どっちもかい！）といった具合に、ねらいに向けて独創性を発揮できる奥深さがあります。発祥は米国連盟カブ部門であり、1953年の公式大会に始まり、今や例年全米大会があるほど代表的なカブスカウト活動です。

桂川地区では有志の合同開催が6月22日（日）の「パインウッドダービー」で4年目を迎えました。

年々参加者は増え、今年はスカウト55人、指導者35人の参加があり、熱く楽しい一日を過ごしました。

私が考えるこの活動の意義は：①科学的要素や美術センスを含むSTEAM教育である ②団を超えて競争・応援が生まれることだと考えています。

次回もスカウトの個性が輝く作品が集まりそうで、今から楽しみです！



京都

創立110周年記念・社会連携事業 「KYOTO アドベンチャーチャレンジ2025」

向日第1団 組織強化委員長 武田 誠二郎

京都連盟では5月に創立110周年記念・京都キャンポリーの併設事業として、「KYOTO アドベンチャーチャレンジ2025」を開催しました。

会場のある南丹市、亀岡市の他、京都市、宇治市から12家族31人の一般参加者を迎えるの1泊2日のキャンプです。参加の子どもたちと保護者の皆様に、ボーイスカウトのキャンプを体験していただくことで、自ら行ってみる楽しさ、仲間と協力することの大切さを体験してもらうことができました。

参加者は最初は尻込みしながらも、次第に積極的になり薪割りや野外料理を行いました。キャンプファイアではアクションソングに熱中し、熾火（おきび）となった営火の火でマッシュマロを愉oshimしました。翌日には林間で「カモフラージュ」（自然には存在しないモノを観察、発見するゲーム）や、アマチュア無線や応急担架の体験など、ボーイスカウトのプログラムに参加しました。

後にボーイスカウトに入団する参加者もいて、ボーイスカウトのキャンプの楽しさをお知らせすることができたのではと思います。

なお、本事業は「子どもゆめ基金」の助成のもと実施いたしました。



兵庫

兵庫連盟創立75周年記念大会

兵庫連盟

4月29日(火)、神戸・須磨学園を中心会場とし、県内スカウトが集まり交流し、次の一步を踏み出すための「活動振興大会」を行いました。参加者は1,882人。

今年は阪神淡路大震災から30年ということもあり、午前の部は防災・災害支援をテーマに活動しました。内容は、震災遺構の見学、大学生年代スカウトの炊き出し訓練、中高生スカウト有志によるブース出展、防災クイズラリーなど。自衛隊と須磨消防署にもご協力をいただき、災害派遣で使う大きな救急車の展示や水消火器、煙避難体験と、さまざまな体験をすることもできました。震災後に生まれたスカウトたちは、震災時の状況を改めて学び、その怖さを知り、今、自分たちにできることは何なのかについて考えました。

午後の部は式典です。全員で一緒に歌って、踊ったあとは、クライマックスの隊旗入場です。ボーイスカウトでは、小学生だけの隊から大学生の隊もそれぞれに、自分たちの旗があり、それを掲げて行進します。ドラムチームの軽快なリズムに合わせ、足並みを揃えて進む姿は壮観でした。



大阪

大阪・関西万博への参加

大阪連盟



万博閉会式国旗セレモニー

大阪連盟では、大阪・関西万博の6か月間の開催期間中に奉仕活動やボーイスカウト独自の活動を行ったのでご紹介します。

- EXPO ホール「シャインハット」で開催された4月12日(土)の開会式には大阪連盟のローバースカウト8人が奉仕、また10月13日(月)の閉会式には大阪連盟ローバースカウト18人が奉仕しBIE旗の降納および次回開催国へのハンドオーバーセレモニーなどを行いました。
- また同日夕刻に万博東ゲート前で全参加国旗降納イベントが行われ、大阪連盟およびガールスカウト大阪府連盟のスカウト・指導者総計380人が奉仕しました。
- 9月23日(火)万博会場内フェスティバル・ステーションで一般来場者を対象に、「ワクワク自然体験あそび in EXPO 2025」を開催し総計2,801人が来場。スタッフとして近畿ブロックのベンチヤースカウト・ローバースカウトなど178人が奉仕しました。
- 万博の期間中、世界中の様々な国や地域、そして国際機関が「公式参加者」として1日限定で主催する「ナショナルデー」・「スペシャルデー」がEXPO ナショナルデーホール(レイガーデン)で開催され、ボーイスカウトはその内土曜日・日曜日を中心に59回担当し主催国旗と日本国旗の掲揚奉仕を行いました。参加人数は近畿ブロックおよびガールスカウト大阪府連盟の59個団354人のスカウトをはじめ支援指導者を含め総計503人が奉仕を行いました。



ワクワク自然体験あそび in EXPO 2025 奉仕者



ナショナルデー国旗セレモニー

大阪

世界とつながれ！ JOTA-JOTI パーク

きたおおさか地区 プログラム委員長 青木 敏明

無線やインターネットを通じた国際交流イベント『JOTA-JOTI』。きたおおさか地区恒例の JOTA-JOTI パークが、今年も大阪連盟のキャンプおおさかで開催されました。大阪・関西万博の余韻が残る 2025年10月18日(土)・19日(日)の2日間、キャンプで一泊して夜も楽しむ隊もありました。ビーバースカウトからローバースカウトまで約160人、奉仕者約130人が参加し、無線とインターネットを通じた海外や国内のスカウトとの交流、無線や世界について学ぶゲームなどを楽しみました。また、スーダン、ペルー、ウガンダなどから来日している留学生を招き、それぞれの母国について教わったり、衣装や太鼓に触れたり、その国の遊びを体験したりと、リアルな国際交流ができました。フィナーレには、テーマソング『つなぐうた～We are the world～世界の平和を願って -A Song to Wish for World Peace-』を手をつなぎながら歌い、友情にあついスカウトの絆を深める機会となりました。



広島



悪天候の中でも笑顔



大会会場到着の様子



災害救助・防災関連プログラム

第19回日本スカウトジャンボリー プレ大会を終えて

広島県連盟

2026年8月に開催予定の第19回日本スカウトジャンボリー本大会の成功を期して、事前準備情報の発信および大会開催に向けた気運醸成を目的としたプレ大会を8月8日(金)～11日(月)の日程で、広島県神石郡神石高原町のティアガルテンキャンプ場で開催しました。中国・四国ブロックのボーイスカウト各県連盟のスカウト・指導者488人が参加しました。

大会1日目の開会式では、国旗を先頭に各県連盟旗の入場から始まり、神石高原町町長をはじめ多くの来賓の皆様にご臨席いただき、たくさんの激励のことばをいただきました。

大会2日目は、本大会会場となる仙養ヶ原一帯をフィールドに実施した「ウォークラリー」、能登半島地震などで救助活動を行ったピースウィングス・ジャパンの活動に学んだ「災害救助・防災関連プログラム」、日ごろの訓練で身につけたロープワークなどを競い合う「スカウト技能競技」に取り組みました。また夜の大集会では、地元の「豊松太鼓・神楽」のアトラクションに大いに盛り上がりました。

残念ながら、2日目夜からの悪天候により1日早い撤営となりましたが、本大会での再会を誓って新たな一歩を踏み出すことができました。

愛媛

台湾嘉義市スカウト連盟と 愛媛県連盟の国際交流スタート

県コミッショナー 横井 寿子

2020年に嘉義市スカウト連盟の提案により交流計画がスタート、新型コロナウイルス感染症拡大による中断を経て、8月7日(木)～13日(水)、1回目の交流として嘉義市スカウト連盟よりスカウト10人、指導者・役員11人、合計21人が来県しました。今回は、愛媛県連盟スカウト52人、指導者・役員など34人と共に19NSJプレ大会参加、ホームステイをメインにし、しまなみ海道見学、高校の剣道部訪問など、多様なスケジュールとなりました。嘉義市スカウトによるプレ大会大集会での台湾の民族ダンス披露には大きな喝采が寄せられました。野営生活でスカウトはすぐに打ち解け、バッジ交換やSNS情報交換等スカウト活動の醍醐味である国際交流を満喫しました。

2026年度は、愛媛のスカウトが台湾に派遣されます。台湾との定期的な国際交流の開始は、本県連盟の発展の一役を担うことが期待されています。

※19NSJ：第19回日本スカウトジャンボリー



歓迎セレモニー



19NSJ プレ大会



今治西高校剣道体験

福岡



ケービング



集合写真

第13回福岡県キャンポリー 2025開催

筑紫第2団 ローバースカウト隊隊長 武末 健志

福岡県連盟100周年を記念し、8月6日(水)～8日(金)、福岡市東区香椎照葉の特設会場にて、「第13回福岡県キャンポリー2025」を開催いたしました。本大会は福岡県連盟として20年ぶりとなる大会であり、県内3地区のスカウトに加え、海外からは台湾・高雄連盟と韓国・釜山連盟の参加もあり、総勢320人のスカウトと指導者が集まりました。

会場の香椎照葉は人工島であり、現在も開発が進むエリアの一角で開催となりました。都市に囲まれた「アーバンキャンプ」として実施したことも、今回の大会の特徴の一つです。

初日は晴天に恵まれ暑い中の設営、夜には開会式が行われ大会が開幕しました。翌日からはプログラムが始まり、自然体験として平尾台で「ケービング(洞窟探検)」、嘉麻市の渓谷で「シャワークライミング(沢登)」、宗像市大島で「シーカヤック」、都市型の「シティーハイク」が行われました。

最終日の「大集会・閉会式」では台湾・韓国そして各地区のスカウトによる出し物で盛り上がり、閉会式後は参加者全員で記念撮影をし、幕を閉じました。



サイト

佐賀

出動！地球まもり隊！

佐賀第3団 カブスカウト隊隊長 松原 紳一

佐賀第3団は、9月に佐賀の海・街・森で環境保護活動を行いました。15日(月)は「出動！キラウみ隊！」として東よか干潟ビジターセンターで有明海の生き物について学んだ後、ラムサール条約湿地に登録された干潟の清掃をしました。ビーバースカウトとカブスカウトは漂流ゴミを綿密に分類・分析し、環境問題への理解を深めました。23日(火)には「出動！キラまち隊！」として佐賀市中心街の清掃をしました。佐賀市の3つのボーイスカウト団と1つのガールスカウト団の隊員が力をあわせ、道路や花壇に捨てられたゴミを拾いました。海と街のゴミの違いの原因や、今後の対策について話し合いました。28日(日)「サガンスキ好き私の木」佐賀県親林交流指導員から森の働きを学んだ後、金立教育キャンプ場を散策。ひとり1本お気に入りの木を決め、樹名板を作り、設置しました。延べ112人のスカウト、指導者、保護者、体験者が参加しました。この一連の活動は、佐賀の豊かな自然と、そこに暮らす人々とのつながりを体感し、環境を守り継ぐ意識を高める貴重な機会となりました。



75年ありがとう そして つなげよう未来へ

発団75周年記念大会実行委員長 鹿児島第2団 団委員長 佐藤 秀子



仏旗入場



集合写真

鹿児島

2025年6月29日(日)、本願寺鹿児島別院本堂にて、「ボーイスカウト鹿児島第2団・ガールスカウト鹿児島県第7団発団75周年記念大会」を開催いたしました。

大会当日は、ボーイスカウト鹿児島県連盟長(鹿児島県知事)、ガールスカウト鹿児島県連盟長、本願寺派スカウト指導者会理事長ご臨席のもと、両鹿児島県連役員・各団指導者・スカウト・保護者、OBの方々にお祝いにかけつけていただき、約250人のにぎやかな大会になりました。

式典では、仏教章修得の両団スカウト2人の調声によるおつとめ、来賓の方々による祝辞、感謝状の贈呈が行われました。

その後、日本連盟100周年記念ソングを作詞・作曲された弓削田健介氏をお迎えしての記念コンサートは感動的で、参加者の方々から大絶賛の声をいただきました。

育成母体の本願寺鹿児島別院の大きく厚い支援のもとでこそ、これまでスカウト活動を続けてくることができた両団です。心から感謝するとともに、これからも仏さまのあたたかいご縁をいただいたスカウトたちがたくさん育っていくことを願ってやみません。



おつとめ



第16回
概要報告

世界スカウトムート派遣

大会期間 / 2025年7月25日(金)～8月3日(日) 10日間

テーマ / Engage

場所 / ポルトガル リスボン市 [開会式]、オバール市・ブサキーニョ・スカウトセンター [主会場]、ポルト市 [閉会式] 派遣員 / 川瀬政美団長、他指導者2人、スカウト16人

世界スカウトムート (World Scout Moot) は、世界スカウト機構 (WOSM) によって、4年に1度、ローバースカウト年代 (大会開催時点で18歳以上～25歳以下) を対象として開催される世界スカウト行事です。2025年7月25日(金)から8月3日(日)にかけてポルトガルで開催された16回目の今回は117の国と地域から7,500人以上のスカウトが集まりました。

今大会のテーマは“Engage”。テーマに沿ったプログラム、アクティビティは、4つ (Nature & Adventure, Society & Politics, Life & Spirituality, Culture & Arts) に分類されており、事前に参加者それぞれが好むものを選択することで、選択結果に沿った Path (活動基地) に所属することになりました。

今回の日本派遣団は、青年世代の派遣として、その自主性と規律性を尊重し、渡航日程を各自で計画することとしました。このことにより、青年スカウトが世界に羽ばたくために、自らの課題を設定し、その実行に責任を持って取り組むことで個人の成長と自己発見につながることを期待しました。

7月上旬から 各旅程の出発空港から経由地を経てポルトガル・リスボンへ向かう

7月23日(水) 日本派遣団リスボン市内ホテルに集結

7月24日(木) 開会式

7月25日(金) 各地域プログラム [パス] へ移動

7月26日(土)～7月29日(火)

参加者はポルトガル国内約120箇所の地域で行われる Path [パス: 選択プログラム] に参加

7月30日(水) ポルトガル全土の活動会基地から主会場に移動する

7月31日(木)～8月2日(土)

主会場のオバール市で、後半プログラムに参加

8月3日(日) ポルト市に移動し閉会式に参加、派遣団解散

8月4日(月) 各旅程を経て帰国の途につく



派遣員の所感から (一部抜粋)

■ 海外のスカウトと話していると海外からどのように日本人が見られているかわかったような気がしました。自分にとっては当たり前のことが海外では意外に受け止められるのだと実感しました。本当の日本の特徴というのは日本にいる自分自身では気づきにくく、外からの視線を通して初めて理解できるものが多いのだと実感しました。

■ 英語はただの学問ではなく、人と人とを結ぶ大切な道具であると実感しました。同時に、自分の語学力をもっと高めたい、そして国際的な場で積極的に学び続けたいという強い思いが芽生えました。不安や戸惑いから始まった挑戦が、最後には自信と新たな目標へとつながったことは、私にとって大きな心の成長でした。これからも壁を超えることを恐れず、新しいことに挑んでいきたいと思えます。

■ 初めに掲げた志をどのような行為へと昇華させ、日々の振り返りの中でどのように意味づけ直すのか。ムートでの学びは、その循環を自ら創り出すことの必要性も示していたようにも思います。大それた目標でなくても、なんとなくでも自分の心を動かしてくれた景色と体験は後の活動を支える大きな糧となるということ、小さな気づきと明日が少しでも良くなるような申し送りを積み重ねることが大切だということ、この二つを今後の活動ではより一層大事にしていきたいと思えました。

■ ボーイスカウトだから得られる経験、見られる景色、仲間と共有できる感動、期待できる未来の社会像、それら全てを味わえたかけがえのない2週間でした。

■ 異なる国のスカウトたちと力を合わせる中で、言葉を越えて通じ合えるもの大きさや互いに補い合う大切さを実感しました。また、世界中の仲間と出会い、共に活動し、文化を分かち合うことは、日常の活動では得られない貴重な体験でした。



第28回アジア太平洋地域（APR）スカウト会議



第28回アジア太平洋地域（APR）スカウト会議は、10月12日（日）～17日（金）にかけて「Scouting Integrated Versatility」のテーマのもと、台湾・高雄市で開催され、26の国と地域から321人が参加しました。日本代表団17人は、全体会議や分科会、各種会合に積極的に参加し、写真コンテスト金賞受賞やAISワークショップ・APRスカウト財団イベント開催協力への表彰も受けました。会議では、新APRスカウト委員会の発足、次回のAPRスカウト会議開催地の決定、ジェンダーインクルーシブ表現やセーフ・フロム・ハーム遵守要件などの規約改正が承認されました。また、APR小委員会委員に日本から推薦した4人が選出され、日本の国際交流事業の紹介も行いました。今回は地域協力、青年参画、安全体制の強化が主要なテーマとなった会議でした。次回会議は2028年に香港で開催されます。

カンダーシュテーク 夏季野営スタッフ派遣

千葉県連盟 千葉第18団 ローバースカウト隊
木谷 実里

スイスにある「カンダーシュテーク国際スカウトセンター（KISC）」は、ベーデン-パウエル卿の「世界中のスカウトが一年を通して集い、交流できる場所をつくる」という夢のもと、1923年に設立された国際スカウトセンターです。センターを運営する世界中から集まるボランティアスタッフは「ピンキー」という名で知られており、私も6月4日（水）～9月1日（月）までの3か月間、ピンクのポロシャツを着て活動しました。この夏は世界各地からおよそ90人のスタッフが集まり、毎日約1,500人のゲストをお迎えしました。私は主に食事の提供やショップ運営を担当しました。スイスアルプスの雄大な自然に囲まれた歴史あるセンターで過ごした日々は、楽しく刺激に満ち、学びの連続でした。そして、世界各国から訪れた多くの若いスカウトたちが、ここで生涯忘れられない思い出をつくり、素晴らしい友人を得て、より広い視野と大きな夢を胸に自国へ帰っていく姿を目の当たりにし、スカウティングが世界に希望をもたらしていることを心から実感しました。



JOTA-JOTI 2025

Jamboree on the Air
Jamboree on the Internet

2025年10月17日(金)～19日(日)にJOTA-JOTI 2025が、開催されました。

JOTA-JOTI (ジャンボリー・オン・ジ・エア、ジャンボリー・オン・ジ・インターネット)は、世界スカウト機構(WOSM)が主催する公式国際行事で、世界中のスカウトがアマチュア無線やインターネットを通じて交流し、友情と国際理解を深めることを目的としています。世界中で158の国と地域、476,022人のスカウトが参加しました。

JOTA(無線)は、アマチュア無線を使って国内外のスカウトと交信します。無線技術や交信マナーを学びながら、リアルタイムでの交流を体験することができます。JOTI(インターネット)は、特別な資格不要です。チャットやSNS、オンラインゲーム、バーチャルキャンプなどを通じて、世界中のスカウトとつながるコンテンツが盛りだくさんです。共通の目的として、スカウトがアマチュア無線やインターネットで参加し、電波を通じて国内各地や外国のスカウト仲間と交信し、お互いを理解し、知識と友情を深めることです。世界的な活動の中でワイヤレスIoT人材の裾野を広げ、若

い人材の創出に寄与します。また、免許を持たないスカウトも、体験運用や参加局の交信を聴取し各地や各国のスカウト活動の理解を推進できます。この行事を機会とし、関連するチャレンジ章、技能章の取得を目指すことができます。

日本連盟独自のイベントとして、7月21日(月)にJOTA-JOTI ジャパン・プレミアを開催し、JOTA-JOTIをより身近に感じていただきました。さらに、10月17日(金)～19日(日)期間中は、奈良県にあるアイコムならやま研究所にて、自団、隊などにおいて自らが運営者となってJOTA-JOTIへの参加を主導できる知識の習得を目指した研修を実施しました。JOTAは、現地の設備を借用して世界のスカウトとアマチュア無線特設局(体験運用)で交信を行い、JOTIでは事前準備から開催までの一連の流れを体得しました。

日本全国の会場から、続々と報告が寄せられています。ビーバースカウトからローバースカウト、さらには指導者まで多くの参加者がJOTA-JOTIの魅力を経験し、非常に賑やかな3日間となりました。



スカウトの日2025 出動！キラまち隊！ ～人と地球によりよい未来を～



静岡県連盟・三島第5団



兵庫連盟・尼崎第14団



宮崎連盟・延岡第4団



埼玉県連盟・春日部第7団



防災 雷対策！ - 紙うちわ



ボーイスカウト日本連盟では9月の第3月曜日である敬老の日を「スカウトの日」と定め、全国での奉仕活動を奨励しています。「スカウトの日」は毎年実施しており、今年で51回目を迎えました。

今年のテーマは、「出動！キラまち隊！～人と地球によりよい未来を～」です。47都道府県連盟およびシンガポール第1団合わせて、695団からスカウト11,311人、指導者6,355人、合計17,666人が環境などをテーマにした奉仕活動に取り組みました。

このプログラムは毎年、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの助成によって実施いたしております。長年の多大なるご支援に感謝申し上げます。

今年の活動資材は「防災 雷対策！ - 紙うちわ」でした。昨年の熱中症対策に続き、近年の気象変動や環境問題を踏まえ、雷に関する防災啓発(雷対策)をテーマとして、活動中に注意できるよう取り上げております。

第25回

全国スカウトフォーラム アフターフォーラムアフター

『全国スカウトフォーラム』とは各県の代表スカウトが持ち寄った課題への取り組みについて討議し、課題への取り組み方針を採択します。そして『アフターフォーラム』で採択された方針の趣旨や意図を所属地域のスカウトに伝えてアクションプランへの取り組みにつなげました。そして今回の『アフターフォーラムアフター』で代表スカウトの所属する県連盟や地区、団などそれぞれの地域で具現化された活動内容やプロジェクトの成果を共有・講評することを通じて、スカウトの地域貢献意識の向上を図り、来年度の全国スカウトフォーラムへの気運を高めました。



■ 開催日時

事前集会：2025年10月15日（水）19:30
～ 21:00 [オンライン]

アフターフォーラムアフター：2025年
11月1日（土）～ 3日（月・祝日）2泊3日間

■ 会場

静岡県 三島市立 箱根の里

■ テーマ

「きっかけをつくれる VS が先陣を切る!! 身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”」の取り組み

■ 参加者

県連盟代表スカウト、都道府県連盟の代表ベンチャースカウト37人

■ スタッフ

第25回全国スカウトフォーラム アフターフォーラムアフター運営委員20人、日本連盟プログラム委員3人



■ 活動概要

1日目：開会式、グループ内投票

初日は各グループによるプロジェクト発表が行われ、第25回全国スカウトフォーラムの提言文をもとに各県で実施された活動内容を共有しました。その後、参加者同士の投票により、翌日に行われるプロジェクト発表会で発表するプロジェクトを選出しました。

2日目：プロジェクト発表会、奉仕作業

午前中のプロジェクト発表会では、選出されたプロジェクトに関する発表を行いました。また、発表後には発表を聞いていた参加者からの質疑応答が行われ、活発な意見交換が見られました。午後の奉仕活動では、実際に体を動かし、奉仕作業とは「何か」を改めて考えました。

3日目：振り返り、閉会式

振り返りでは、グループディスカッションで得た気づきをそれぞれのプロジェクトに反映させ、今後の展開に向けた準備を整えました。



Rover Scout Workshop 2025

ローバースカウトワークショップ 2025

開催報告

2025年9月20日(土)から22日(月)、静岡県伊豆の国市のMOA 大仁研修センターにて「Rover Scout Workshop 2025 (RSWS2025)」が開催されました。全国12県連盟から19人のローバースカウトが集い、「自助・共助」を軸に、災害多発時代に必要な視点と行動力を学び合う3日間となりました。

本ワークショップは、ローバースカウトが“地域に根差した若い力”として、災害時に自らを守り、周囲を支える存在となることを目指した実践型プログラムです。防災の専門知識だけでなく、地域課題を自分ごととして捉え、仲間と協働しながら解決へ向かう姿勢を育てることを目的としています。

研修では、避難所運営のシミュレーションや炊き出し体験、ボランティア活動の基本講座などを通して、災害現場のリアルを体感。規模は大きくありませんが、一つひとつのプログラムは「どのように判断し、どう連携するか」を考え抜く内容で、参加者は互いの知見や気づきを共有しながら理解を深めました。また、グループワークや振り返りの時間では、地域社会の一員としての責任や、普段からの備えの重要性について活発な議論が交わされました。

最終日には、3日間の気づきを整理し、「これからの自分に何ができるか」をまとめました。参加者からは、

- 災害時にまず自分の安全を確保し、冷静に行動できる力をつけたい
- 情報が不足する現場で、聞く姿勢や相手の背景を想像する力が欠かせないと実感した
- ローバースカウトとして地域の防災訓練に積極的に関わりたい

といった声が寄せられ、学びを“地域に持ち帰る行動”へとつなげる意欲が高まった様子が見られました。

この事業は、ローバースカウトが社会で果たす役割を再認識し、自らの可能性を広げる機会となりました。ここで得た視点と経験が、全国の地域での防災力向上につながることを期待しています。



ボーイスカウト 日本連盟医療チーム



日本連盟医療チームは、2009年4月に設立されました。

それまではスカウト活動における安全対策の一環として、各種大会において専門的知識・技術に基づいて手当が必要な傷病者に対して、医師や看護師などの医療従事者により構成されるチームがその都度救護所を設置・運営して救急医療活動を行っていました。しかし、こうした特殊チームのメンバーは大会ごとに期間限定で召集されるため組織化されておらず、過去の大会における経験の伝達・継承や、都道府県を越えての意見・情報交換を行う機会はほとんどありませんでした。

一方、ボーイスカウト日本連盟には公共性の高い青少年育成団体として社会へ貢献することへの期待が高まってきており、より楽しく安全に活動するための健康管理対策の重要性が増していました。さ

らには当時、第23回世界スカウトジャンボリーの日本開催が決定され、医療文化の異なる諸外国との調整を含めた大規模野外行事における救護のあり方の検討が必要となりました。

こうしたことから、医療関係者の情報共有を図りスカウト活動における健康管理対策を強化し今後の課題解決を図るためのネットワークの構築の必要性が議論され、日本連盟理事会の下に医療チームが設立されることとなりました。

今後も当医療チームは、野営大会や海外派遣などにおいて、スカウト・リーダーが安全に安心してキャンプ生活を過ごせるようなサポートを提供していこうと考えています。継続的な活動のためには新しいメンバーの加入が必要で、医療チームの活動を紹介・認知度を高めることで、広く皆さんからの参加が得られればと思っております。興味・関心のある方は以下のメールアドレスにお問い合わせいただけると幸いです。

医療チーム担当 Eメール: soumu@scout.or.jp

以下に2015年日本で開催された第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)での活動記録を紹介します。日常的な医療では遭遇できないような(長期野営、長時間・長距離移動、多くの人が集まる特殊環境下での活動などによる)傷病発生に対する医療支援が必要であったことを示しています。

23WSJ・ジャンボリーホスピタル

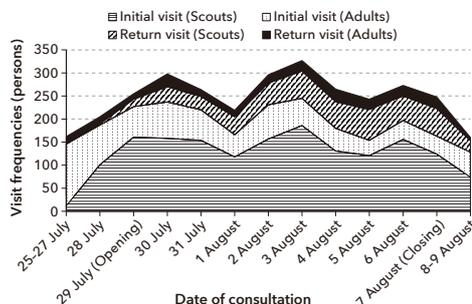


図1 ジャンボリーホスピタル受診者数の推移

総参加者数 33,628人

参加国・地域 155の国と地域

総受診者数 3,215人(スカウト2,142人、成人1,073人)

場外医療機関への搬送 122人

1,000人当たりの受診者数 95.6(女117.1、男77.3)

1,000人当たりの初診者数 スカウト女93.1、スカウト男58.3、成人女101.2、成人男86.5

8月1日を休日(会場内イベントだけ)としたことにより、その日の受診者数減少と、翌日からの再増加を観察した。熱中症による受診者数の推移(図2)においても、同様の現象が観察された。

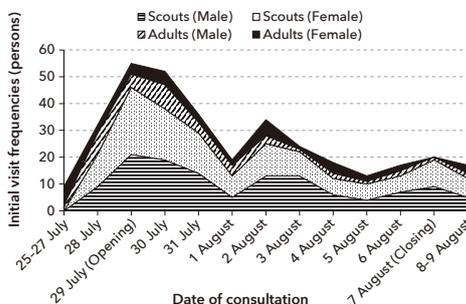


図2 熱中症/脱水症による受診者数の推移

初診時傷病の特徴(多変量ロジスティック回帰分析)

スカウトに多い 熱中症、脱水症、頭痛、疲労、裂傷、挫創、膿痂疹(とびひ)

成人に多い 靴擦れ、水疱

女性に多い ねん挫、骨折、脱臼、パニック発作、過呼吸

男性に多い 裂傷、挫創、打撲傷、蜂窩織炎、爪囲炎

前半に多い 熱中症、脱水症、裂傷、挫傷、接触性皮膚炎、湿疹

後半に多い 風邪、咽頭炎、上気道炎、胃炎、膿痂疹(とびひ)



医療体制

ジャンボリー・ホスピタル
(中央救護所)

キャンプ生活が困難な傷病者を受け入れ、会場内で可能な範囲の医療行為を行い、その範囲を超える場合は場外の近隣病院へ搬送した。

ファーストエイドポイント
各拠点に設置される大型テント内で応急手当を行う他、ジャンボリー・ホスピタルとの連絡を行った。

臨時ファーストエイドポイント
各行事の運営時間に合わせ開設した。

リスニングイヤヤー
参加者が何かについて相談したり、リラックスするための休憩所として利用することができるリスニングイヤヤーを設置した。





第19回日本スカウトジャンボリー開催へ

— 仲間と挑み、未来へつながる7日間 —

第19回日本スカウトジャンボリー（19NSJ）が、2026年夏、広島県・神石高原町でいよいよ開催されます。標高700mの豊かな自然に包まれた「神石高原ティアガルテン」と隣接する「カントリーパーク仙養」一帯に全国のスカウトが集結し、熱気と笑顔あふれる一週間が始まります。まさに、スカウトたちが大きく羽ばたく“舞台”が整いました。

参加スカウトは「JOURNEY」「NATURE」「SKYLINE」「KIZUNA」の4つのサブキャンプに分かれ、全国の仲間と暮らします。約600㎡のキャンプサイトでテントを張り、協力して野営をし、語り、助け合う日々。ここで生まれる友情と経験は、一生の宝物となるでしょう。ゴルフコースのフェアウェイを活用した広大なサイトには、青空の下で思い切り活動できる環境が広がっています。

プログラムもさらに進化。競技・チャレンジ・体験・人権平和・環境防災といった5つのテーマで構成されるモジュールプログラムでは、班旗立てや火起こしなどの競技から、自然科学の体験、平和や多様性を学ぶ活動まで、ジャンボリーならではのダイナミックな内容が揃います。さらに、瀬戸内海から中国山地までを舞台にした地域プログラムでは、自然・文化・地域の人々と深くつながるフィールドワークが展開され、スカウトの視野を大き

く広げてくれるでしょう。

炊事では、地元の食材を活かした献立で配給されます。仲間と交流を深めながら作る食事は、きっと思い出の味になるはずですよ。

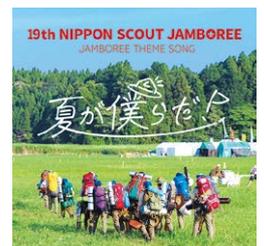
そして大会のテーマソング「夏が僕らだ！」が決定。会場に響く歌声が、スカウト一人ひとりの胸にある冒険心を呼び覚ましてくれるでしょう。

19NSJは、未知の体験が詰まった“最高の夏”への入口です。仲間とともに挑戦し、自分を超越する物語をつくる準備を進め、開催の日を楽しみに待ちましょう。

19NSJに関する最新情報は、公式ホームページでご確認ください。公式ホームページでは、テーマソング「夏が僕らだ！」や最新の「ジャンボリーインフォメーション」がダウンロードできます。



各サブキャンプのロゴマーク
4つのデザインを組み合わせると、神石高原町の町木「ヤマボウシ」になります。



大会テーマソング



19NSJ



19NSJ 公式ホームページ

<https://19nsj.scout.or.jp>

INTERVIEW WITH



A YOUNG LEADER

社会で活躍する若手リーダーにインタビュー

スカウト活動を通して 成長した若手リーダーが 社会でどのように活躍しているか インタビューしました！

プロフィール

松岡 悠和 [29歳]

宇治第5団 ベンチャー隊長

職業/教員 大阪公立大学など
第19回日本スカウトジャンボリー 広報部 報道・企業班長

ボーイスカウト時代の思い出は何ですか？

中学3年生のときに参加した第15回日本ジャンボリー（静岡県朝霧高原）が印象に残っています。6泊7日の期間、雄大な富士山に見守られながら、広大な会場で冒険を楽しんでいました。7人の班で過ごすなかで、年下の仲間たちが「はんちょー、はんちょー」と親しげに呼んで、頼ってくれていたことが思い出されます。もともと内気な性格でしたが、班長としての役割を果たすなかで、「自分が全部やる」のではなく、調理などのキャンプ生活の仕事や、プログラムを回る計画づくりを後輩に任せ、できることを一緒に確認しながら役割分担することを意識しました。その結果、全員の力が発揮され、班としてジャンボリーを存分に楽しむことができたと思います。今振り返ると、一人ひとりの力を信じて託す、そして人は役割を通じて成長していくことを学んだ、大変貴重な経験でした。

ほかにもジャンボリーの思い出はありますか？

大学2年生の年には、第23回世界スカウトジャンボリー（日本・山口県きらら浜）が開催され、スタッフとして参加の機会をいただきました。参加者3万4千人の生活を支えるのは8千人のボランティアスタッフで、その大多数は海外からのスタッフでした。私は場外ハイキングの運営チームでスタッフの仕事を割り振って統括する役割にあたりました。世界各地から集まった仲間と働くなかで、自分の「当たり前」は当たり前ではないと実感しました。坂道の多い地域で育ち自転車に乗る習慣がないスタッフには徒歩圏内のポイントを任せるなど、それぞれの事情や得意分野を踏まえて配置を工夫することで、みんなが力を発揮できる体制を整えていきました。私が英語に苦戦しながらも精いっぱい頑張っているのを見て、いろいろな面でスタッフの皆さんが支えてくれたことが印象に残っています。自分一人が頑張るのではなく、世界中の仲間と支え合い大きな仕事をやり遂げられたことで、大きな達成感と自信を得ました。



第23回世界スカウトジャンボリー（2015年）では、オフサイト・プログラム部で場外ハイキングを担当しました。一緒にプログラムを進めた仲間たち（上写真）と、ハイキングのチェックポイントから見えるジャンボリー会場（下写真）。

そんなボーイスカウトでの経験が、 社会の中でどのように生きているか教えてください。

大学教員は個人プレーと思われるかもしれませんが、意外と共同作業が多いです。研究会やパネルディスカッションを企画したり、オープンキャンパスの運営や、パンフレットの編集など、大学の内外でいろいろな方と協働します。そうした場面では、どうやってチームで分担するか、どうやって一人ひとりが役割を果たせるようにするか、という調整が欠かせません。私はボーイスカウトでの活動を通して“周りと共に協力して物事を進める力”を自然と身につけることができたと感じており、大学でもチームワークを生かした仕事に自信を持って取り組んでいます。

ときどき周囲から「そういうのは天性の才能ですね」と言われることもありますが、実はボーイスカウトでの経験の賜物です。チームで仕事をアレンジしていく経験を10代20代でできるのはボーイスカウトの強みなんだと、勤めだしてから実感しました。

ありがとうございます！ 最後に一言！

これまではボーイスカウトの中でメンバーの力を引き出す場面が多かったですが、今は新たに、社会とボーイスカウトをつなぐ役割を担っています。例えば、ひとり親家庭のスカウト活動を支援するクラウドファンディングなどを通して、「ボーイスカウトを支える輪」を広げる活動にも取り組んでいます。

来年のスカウトジャンボリーでは、報道・企業班として開催の1年以上前から準備を進めています。今回スカウトジャンボリーの思い出を振り返ってみて、このイベントが私にとってかけがえのないものであると感じました。今回はそれを支える1人になれることを光栄に思います。私が体験したような、人生を変えるほどの出会いや成長の場を、今回参加する子どもたちに提供できるよう、チーム一丸となって頑張ります！



ひとり親家庭の活動支援のチャリティを集めるために、京都発ファッションブランド JAMMIN とボーイスカウトの期間限定コラボの企画にも携わりました。



ボランティアで部活動外部コーチを引き受けた中学校で、生徒から贈られたアルバムの表紙。なぜニンジン!?



ベンチャー隊長としてウッドバッジ実修所（隊指導者上級訓練）に参加。4泊5日で多くの学びと仲間を得ました！



僕がベンチャースカウト隊長として初めて & 団として初めて富士スカウトが誕生

#「やりたい」を、あきらめさせない。

経済的な負担や、保護者の多忙さから、日本のひとり親家庭などの子どもたちは、学校・家庭以外での学習や体験の機会が制限されやすい状況にあります。ボーイスカウト日本連盟は、「ともに進もう！」を合言葉に、2015年から、ひとり親家庭等の子どもたちに活動支援金を届ける助成プログラム（トモス助成）を行ってまいりました。

調査・研究 ～なぜ、今「体験」が必要なのか～

体験機会の格差は、子どもの発達と密接に関わる社会課題です。ボーイスカウト日本連盟では、この「体験格差」の実態を把握し、より効果的な支援策を講じるための調査・研究を行っています。



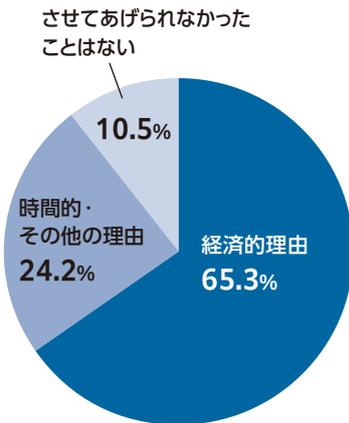
<https://www.scout.or.jp/member/group-operation/subsidy-program>

調査結果は、インパクトレポートとして公表されています。

ひとり親家庭の厳しい現実

スカウト活動に参加させているひとり親家庭の約9割が、経済的な理由などで「子どもがやってみたいと思う体験をさせてあげられなかったことがある」と回答しています。これは、多くの子どもたちが体験の機会を喪失しているという、厳しい現実を示しています。

■ 体験をさせてあげられなかった経験（ボーイスカウトのひとり親家庭95世帯に質問）



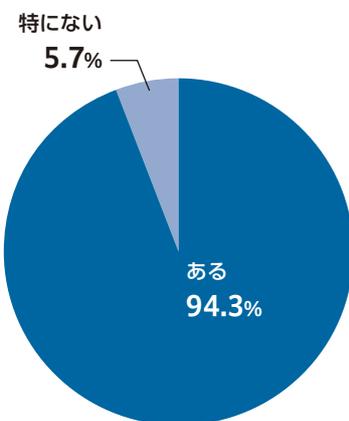
※トモス利用者調べ（スカウト活動は除く）

子どもをボーイスカウトに参加させているひとり親の

89%

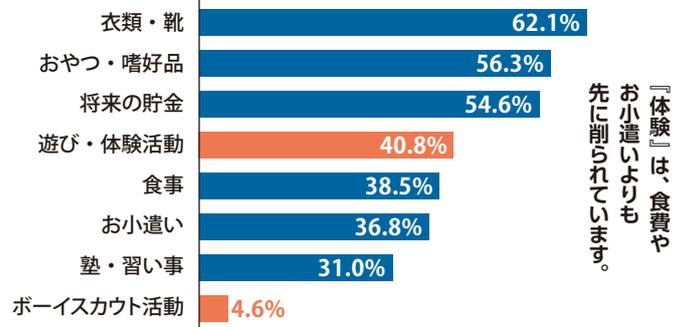
が、子どもがやってみたいと思う体験をさせてあげられなかったことがある

■ 子どものための費用のうち、物価高騰のために抑えているものが（ボーイスカウトのひとり親家庭174世帯に質問）



9割以上

の家庭が、物価高騰のために子どものための費用を切り詰めています。



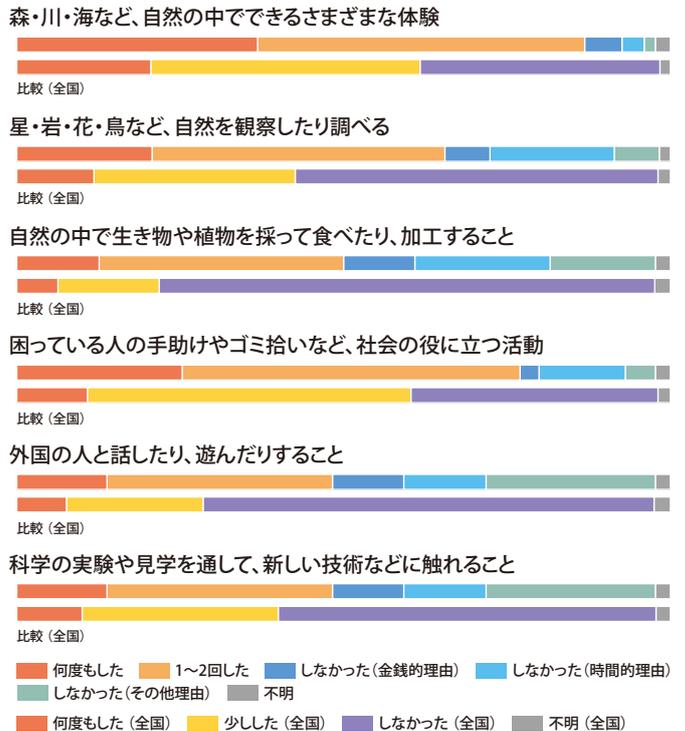
「体験」は、食費やお小遣いよりも先に削られています。

「ボーイスカウト活動」を節約対象に挙げた家庭は極めて少数です。「他のことを我慢してでも、スカウト活動だけは続けさせたい」と願っている証であり、助成プログラムがその想いを支えていると言えます。

それでもスカウトなら体験できる

厳しい環境にありながら、トモス助成を受けたスカウトたちは、一般的な家庭の子どもたちよりも多くの自然体験・社会奉仕体験を積んでいます。家庭だけでは提供が難しい「体験」を、スカウト活動が補完していることがわかります。

■ 最近1年間で実際に子どもが体験したこと（ボーイスカウトのひとり親家庭174世帯に質問）



(比較対象は全国の中高生。出所: 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和4年度調査)報告書」2024年)

ボーイスカウトの子どもたちは、ひとり親家庭であっても、全国平均より多くの経験をしています！

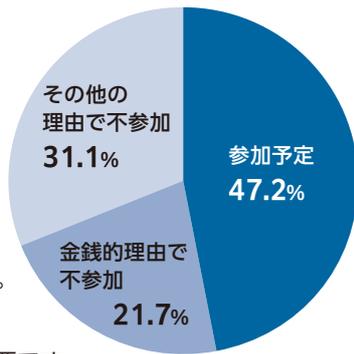
■ 第19回日本スカウトジャンボリーへの参加・不参加の理由
(ボーイスカウトのひとり親家庭106世帯に質問)

4年に1度の大冒険。
その夢を

2割

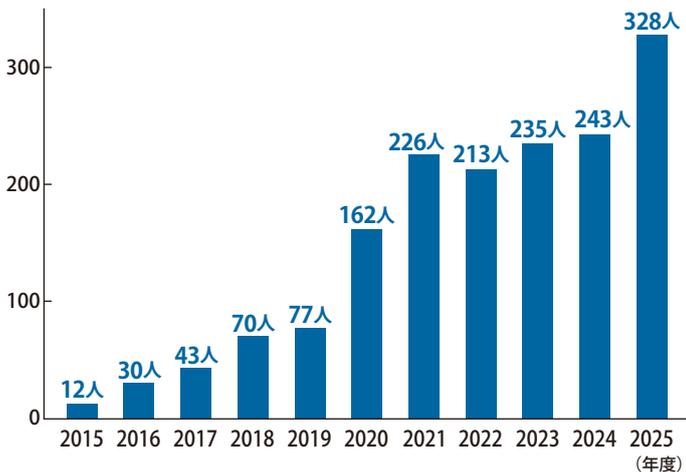
の子が金銭的理由で
あきらめました。

「みんなと一緒に行きたかった」。
その声を、次はなくしたい。
そのために、あなたの支援が必要です。



助成活動 ~広がる「ともに進もう」の輪~

2015年度から2025年度までに、累積で延べ1,600人以上のひとり親家庭の子どもたちに、活動支援金を届けることができました。2025年度からは、支援対象年齢を高校3年生まで拡大いたしました。



サポーター募集 ~あなたの支援が、次の笑顔をつくる~

4回目のクラウドファンディングでは、全国のボーイスカウトの仲間とともに支援の輪を広げることに挑戦しています。



2025年12月10日(水) ~ 2026年2月10日(火)
https://readyfor.jp/projects/scout_tomosusu03

つながる支援、ひろがる体験



月々のクレジットカード決済によるご寄付、PayPay、また書き損じはがきなどによるご寄付、遺贈(遺産によるご寄付)を受け付けています。2024年度は累計で

7,845万円(災害募金482万円を除く)のご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます

ご寄付に関するお問い合わせ

メール bokin@scout.or.jp / 電話 03-6913-6262

トモス助成利用者インタビュー

「続けるからこそ見える景色がある」

今回は、長年にわたり家族でボーイスカウト活動に参加し、トモス助成を活用してくださっている方にお話を伺いました。

—まず、お子さんたちの現在の学年を教えてください。

高校3年生と1年生です。ちょうど受験の時期で、毎日慌ただしくしています。

—ボーイスカウトを始めたきっかけは何だったのでしょうか。

偶然ボーイスカウトの工作活動を見かけたことです。娘が「私これやる!」と言って、見学もほとんどしないうまに入隊しました。私自身はボーイスカウトについて何も知らず、女の子も入れると知って驚きました。

—お子さんたちはどんな性格ですか？

娘はもともと内向的でしたが、班長や組長を経験する中で自信をつけ、人前で話すことができるようになりました。企画書や報告書も自分で作成し、世界スカウトジャンボリーを経て海外にも興味を広げています。

息子は社交的で活発なタイプ。中学生の間は活動から離れましたが、ベンチャー隊で「自分の企画ができる」楽しさに魅力を感じ、今は富士スカウト取得を目指して精力的に取り組んでいます。

—お母さんもリーダーとして活動されていると伺いました。

はい。家族で活動を続けるなかで、自然と副長として関わるようになりました。学校とは違う環境で多くの大人に見守っていただけることが、ひとり親家庭にとって大きな支えになっています。隊長や副長の皆さんとの連携のおかげで、子どもたちは安心して挑戦できています。

—娘さんは韓国の世界スカウトジャンボリーにも参加されたそうですね。

K-POPが好きで韓国語も独学していたこともあり、迷わず参加を決めました。とても過酷だったようですが、表情も自信も大きく変わりました。「また行きたい」「韓国にリベンジしたい」と新しい目標が生まれたようです。

—ご家庭では、どのようにボーイスカウトの話をされていますか？

毎日の食卓で必ず出てきます。企画書の話、ボランティア活動の話、進歩の話…家族共通のテーマがあることがとても良い時間になっています。

—トモス助成はどのように役立ちましたか？

夏キャンプなどは費用がかさむので、助成は本当に助かりました。3万円は大きいです。ボーイスカウトはそんなにお金がかかる活動ではないですが、どこかに挑戦してみたいという時に使えて、ありがたかったです。また、申請時に「自分の活動や意思を書く」ことが、子どもにとって振り返りと自信につながりました。隊長や家族のコメントも励みになり、良い記録として残っています。

—今年から高校生まで対象が拡大されました。

ありがたいです。息子が世界スカウトジャンボリーを目指しているので、挑戦の幅が広がります。

—ひとり親家庭の方にメッセージをお願いします。

ひとりで子育てをしていると、しんどい時期があります。でもボーイスカウトには、家族以外に子どもを見守ってくれる大人がいます。続けることで必ず見える景色がありますし、孤立しないためにも地域とのつながりは大切です。ボーイスカウトは“子どもが一人前になっていく”過程を確かに支えてくれる場所だと思います。



株式会社三菱UFJ
フィナンシャル・グループ
経営企画部 ブランド戦略グループ
石渡 真央 さん

——まず、御社の事業内容とご担当の業務について教えてください。

三菱UFJフィナンシャル・グループでは、グループの総合力を活かし、個人・企業・地域社会の皆さまの課題解決を通じて、持続的な成長をサポートしています。

私はその中でコーポレートブランディングを担当しており、社内外に向けて企業ブランドを発信する役割を担っています。その一環として、社会貢献活動にも取り組んでいます。

——ボーイスカウトへの支援を始めたいきっかけを教えてください。

当社は Purpose として「世界が進むチカラになる。」を掲げています。ここで

言う「世界」とは、お客さまご家族、地域社会の皆さまなど、私たちの周囲にいるすべての人々を指しています。

金融機関は預金や融資を通じて皆さまのサポートをする活動をしています。通常の業務だけでは対応が難しい社会課題については、寄付などを通じて貢献しています。

社会貢献活動では「次世代育成」「環境保全」「文化の保全と伝承」「金融経済教育」「災害など、その他支援」という5つの重点領域を掲げており、次世代育成に取り組むボーイスカウトの活動は、まさにその軸に合致することから支援を決めました。

——社内向けのブランディングとしては、具体的にどのような取り組みをされていますか？

今回のような社会貢献活動について、社内にも「どのような思いで支援を行っているのか」を発信しています。

普段の業務では関わる機会が少ない分野にも、会社として貢献できていることを知ることで、従業員が自らの仕事に誇りを持ち、働きがいにつながると考えています。

——ボーイスカウトは「より良い社会人の育成」を掲げていますが、御社が求める人材像を教えてください。

変化の激しい社会において、お客さまの未来を支え続けるためには、変化を前

向きに捉え、挑戦と成長を続けられる人材が不可欠です。

そのように環境の変化を先取りしながら、自らの可能性を広げていける方を求めています。

——これまでにボーイスカウトと接点がありましたか？

これまで深く関わる機会は多くありませんでしたが、街中で活動を見かけたことはありました。

当時の印象は「元気があって、しっかりし



らご支援いただき、ボーイスカウトの青少年に対して教育機会を提供しています。
スカウトジャンボリーに支援いただいている企業様にインタビューさせていただきました！

ている子どもたち」。制服姿で仲間と協力し合って活動する姿から、礼儀やチームワークが自然と身についているというイメージを持っていました。

今回、社会貢献活動としてボーイスカウトを支援する中で、その活動方針やプログラムを知り、子どもたちが成長していく理由がよく理解できました。以前抱いていたイメージと実際の活動内容がつながったように感じます。

——来年、日本スカウトジャンボリーに

参加する子どもたちへメッセージをお願いします。

普段とはまったく異なる環境である神石高原町での活動は、多くの学びと成長の機会になるはずです。

自然探求や歴史文化の学習、地域の方々との交流はとても貴重な経験ですので、ぜひ自分から積極的に行動し、新たな挑戦や発見を楽しんでほしいと思います。

仲間と協力し、全力で取り組む皆さんを心から応援しています！



第19回日本スカウトジャンボリー

テーマ

「挑戦 ～神石から未来への一歩～」
スカウト一人ひとりがジャンボリーを通じて、未来に向かって力強く歩みを進めるような新たな挑戦をしてほしいという願いが込められています。

開催期間

2026（令和8）年
8月4日（火）～10日（月）
6泊7日間

開催場所

広島県 神石高原町
海拔：平均700m、神石高原ティアガルテン・カントリーパーク仙臺

参加規模

総参加者数：8,000人
スカウト：4,800人／指導者：1,200人
／海外・関係団体：400人／運営スタッフ：1,600人

主催

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

19nsj.scout.or.jp



未来を照らす冒険に、あなたの力を。

100年以上の歴史をもち世界中で広がるボーイスカウトは、ボランティアの方々の熱意と地域の方々からのご寄付によって支えられています。当連盟では、子どもたちの活動を応援していただくために、さまざまなご支援の方法を用意しています。

寄付金（1回限り）[随時]

どなたでも、いつでもご寄付いただけます。クレジットカード決済、銀行振込などに対応。ジャンボリーやひとり親家庭支援への用途指定もできます。



維持会員 [継続サポーター]

「維持会員」という制度として、個人・法人の方からの継続的なご寄付をお願いしています。1か月1,000円から可能です。現在4,200人の継続サポーターが登録しています。



遺贈 [遺言による寄付]



遺言により、ご自身の財産の一部または全部を寄付することができます。公益財団法人へ遺贈いただいた財産は相続税の課税対象になりません。また、相続または遺贈により取得した財産を寄付いただいた場合には、一定の条件を満たすことでその財産には相続税がかかりません。

もったいない寄付・キモチと。



書き損じハガキなどを集め、ひとり親家庭支援に活用させていただきます。またブックオフとの提携により、中古本やゲームなどのリサイクルによる寄付も可能です。

ソフトバンクつながる募金 Yahoo! ネット募金

ソフトバンクの通信料お支払いとともに、またクレジットカード決済やVポイント、PayPayなどのご寄付を受け付けています。少額からお手軽にご支援いただけます。



PR 自動販売機 [コカ・コーラボトラーズジャパン社]

特別デザインの自動販売機を設置することで、スカウティングをPRでき、さらに売上の一部が寄付金としてスカウト活動の支援に充てられます。



これらの他に、ジャンボリーなどの協賛、クラウドファンディング、被災地支援募金、災害ボランティア活動支援金としてのご寄付もごさいます。子どもたちの挑戦を支える誇りある仲間に — あなたも。

税制上の優遇 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、税額控除の対象です。



最大
約50%
の税控除

例えば10万円を寄付すると、最大で4万9000円の税控除になります！

所得税控除	住民税控除	実質負担額 [最小]
3万9,200円	9,800円	5万1,000円

税控除には限度額があります。確定申告が必要です。

住民税控除は、お住いの自治体が控除対象として当連盟を指定している場合に限りです。



別枠での
損金算入
+
地方税も
減額

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、「特定公益増進法人に対する寄附金」として取り扱われ、一般の寄付金とは別枠で一定の限度額相当まで、損金算入限度額を計算することができます。

また、それに伴った法人税の減額によって、地方税も減額となります（損金算入限度額については、法人の所在地、資本金、所得の金額によって異なります）。

※詳しくは、お近くの税務署または都道府県税事務所、税理士などへの相談や国税庁ホームページ「チャットボット」や「タックスアンサー」をご利用ください。

ご寄付に関する
お問い合わせ



bokin@scout.or.jp

メール



03-6913-6262

電話

公益財団法人として信頼される ガバナンス体制に基づく健全な財務運営

当連盟の2024年度の総収支額は8.6億円となっています。

前年2023年度は第25回世界ジャンボリーへの参加で収支とも約5億円多い、13.7億円でしたが、当年は大きな国際大会もなかったため、収支ともに小規模となっています。

収入の基本的部分は加盟員登録料・会費で4.4億円（51%）です。その他主なものには、不動産賃貸・ブランド使用料・出版物収入など各種事業収入が1.6億円（18%）、共済事業収入1.4億円（17%）、補助金・寄付金等収入0.2億円（2%）となっています。

一方の支出については、公益事業全体として4.5億円（55%）を使用しております。

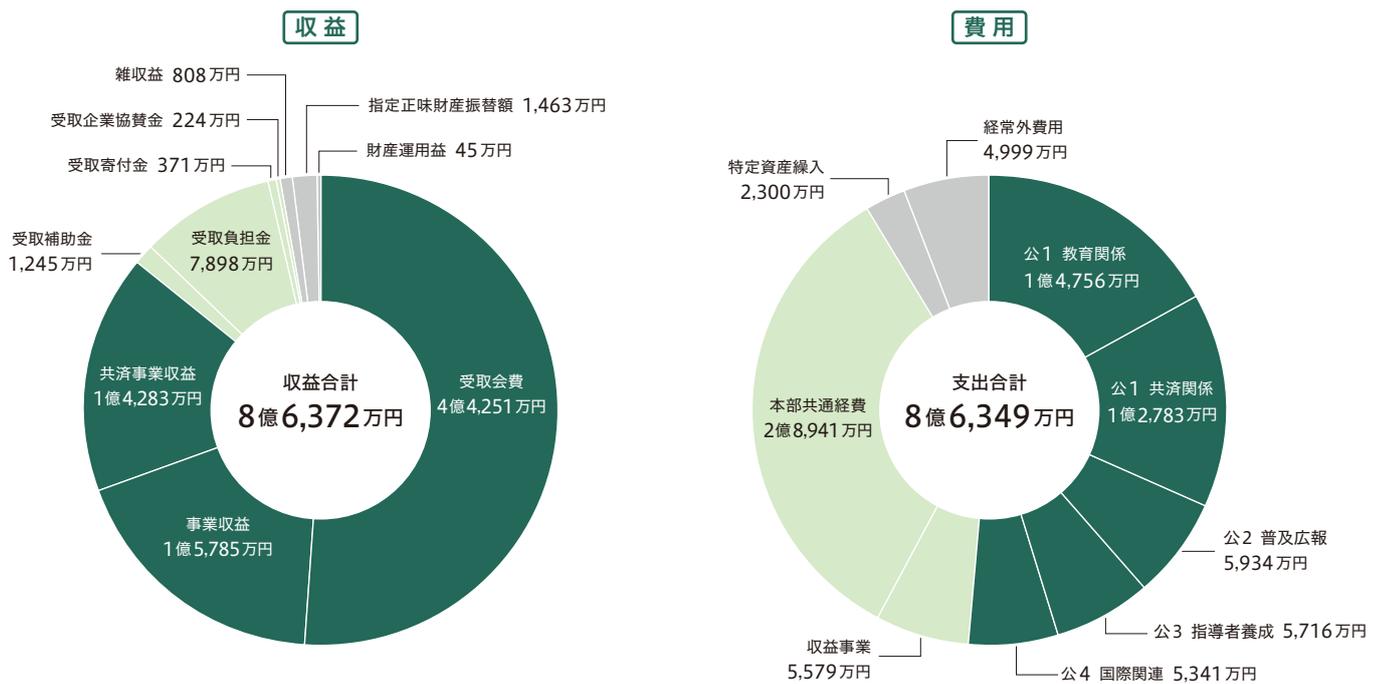
主な内訳としては教育関係事業に1.5億円（18%）、共済事業に1.3億円（16%）、普及広報事業に0.6億円、指導者養成事業に0.6億円、国際関連事業など0.6億円となっています。

事務局人件費や法人本部経費として2.9億円（34%）を要していますが、野営場営繕目的の特定資産に0.2億円の繰り入れも行いました。

施設の営繕費はもとよりジャンボリーなど大きな大会の準備費など、持続可能な将来に向けた資金的備えもしながら、しっかりしたガバナンス体制のもと、収支相償の健全な財政運営に努めています。

昨今、加盟員からの登録料収入が減少傾向にあり厳しい財政状況が続きますが、「人と地球によりよい未来を」つくるべく、スカウト運動に賛同いただける企業や個人へ広く呼びかけ、新しいファンドレイジングにも取り組みながら、引き続き安定した財政を目指してまいります。

2024年度決算



注) 公益事業: 公1から公4までの事業



クラウドファンディング 2025年12月10日(水)～2026年2月10日(火)

「やりたい」を、あきらめさせない。

ひとり親家庭の子どもたちに、未来を変える体験を届けたい



ボーイスカウト日本連盟では、ひとり親家庭の子どもたちがボーイスカウトに参加するための活動支援金を届ける『ともに進もうひとり親家庭等助成プログラム(トモス助成)』を2015年から続けてまいりました。今後も支援を続け、広げるためには、皆様からのご支援が必要です。どうぞ応援お願い申し上げます。

ボーイスカウトとは

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる世界最大級の青少年教育運動です。世界176の国と地域で6,000万人以上の仲間が活動しています。

ボーイスカウトは、野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、青少年が知識や技能を身につけ、自主性や協調性を育むことで成長を支援します。

私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。

ボーイスカウトには、多様な関わり方があります。

■ 年代別に展開されるスカウト活動



冒険は、笑顔とはじまる

ビーバースカウト【小学生の1年生の4月から】
カブスカウト【小学校の3年生の4月から】



未来を照らす冒険へ

ボーイスカウト【小学校6年生の4月から】
ベンチャースカウト【中学校3年生の9月から】
ローバースカウト【18歳から26歳】

■ 大人のあなたにも



未来を照らす冒険に、あなたの力を
子どもたちの体験を支える指導者を
募集しています



電子版でもご覧いただけます！
体験の申し込みもいただけます！

人と地球によりよい未来を

